

## ユヴァル・ノア・ハラリ イスラエルの歴史学者 4月7日収録

人類の歴史を壮大なスケールで描いた『サピエンス全史』を執筆。『ホモ・ゼウス』では人類が直面する課題を描いて世界中のベストセラーになった。

今回の危機は、民主主義にとって大きな挑戦であり私たちがどんな社会で生きていくことになるのか重要な選択を迫られることになる。

**Q このインタビューは日本の首相が緊急事態宣言を発令するのと同じ日になりました。私たちは今、新型コロナウイルスが世界を変える歴史上の決定的な瞬間にいると思いますか？**

はい、その通りです。今、歴史の変化が加速する時代に突入しようとしています。次の2～3ヶ月の間に私たちは世界を根底から変える壮大な社会的・政治的実験を行うことになるでしょう。例えば、雇用市場です。コロナ危機で組織労働者のさらなる弱体化が進むかもしれません。インターネットで仕事を請け負う「ギグ・エコノミー」で働く人には組合もなく保護も受けられません。このような人が増えるか？ その逆もあり得ます。そして多くの企業が政府に救済を要請しています。この緊急事態において、自由市場にだけ頼ることができないのは誰の目にも明らかです。一部の国は、経済システムと雇用市場をより良いものに作り変えるいい機会となるでしょう。私たちは選択肢が数多くあることを理解すべきです。そしてそれらは政治的選択です。これは事前に決まっていることではありません。ウイルスが私たちに代わって決断するわけでもありません。それは政治家の仕事であり、政治家を監視する市民の仕事です。

メディアと一般の人たちには、ウイルスの流行にだけ関心を持つべきではない、と言いたいです。「今日は感染者が何人だった」とか「病院に何台の人工呼吸器がある」といった話は重要ですが政治状況にも焦点を当てるべきです。

**Q コロナウイルスと権力についてうかがいます。このような緊急事態で政府はこれまでないほどの権力を手にすることができます。これは何を意味するのでしょうか？**

全体主義的な体制が台頭する危険があります。ハンガリーが良い例です。形式的にはハンガリーはまだ民主国家ですが、オルバン政権は独裁的とも言える権力を握りました。それも無制限の独裁的権力です。緊急事態がいつ終わるかはオルバン首相が決めます。他の国にも同様の傾向があります。非常に危険です。通常、民主主義は平時には崩壊しません。崩壊するのは決まって緊急事態の時なのです。

新型コロナウイルスとの戦いの中で民主主義の危機が懸念されているのが、ハンガリーです。オルバン首相率いる与党は、感染拡大を受けて非常事態法を議会に提出し可決しました。首相の権限が拡大され、議会の承認なしに非常事態宣言の無期限延長できるようになりました。さらに、感染防

止を妨げる嘘の情報を流した者には最高5年の禁固刑が科されます。メディアへの威嚇に利用されかねないと、国内外から批判の声が上がっています。

ハラリ氏の母国イスラエルでは、この危機の最中に行われて総選挙でネタニヤフ首相の支持勢力が過半数を割りました。暫定首相になったネタニヤフ氏は、感染防止対策を理由に野党が多数を占める議会の閉会を命じようとしていました。これまで政治的な発言を控えてきたハラリ氏ですが、この動きには批判の声をあげました。

コロナは民主主義を殺した。ネタニヤフは選挙に敗れたのに立法府を閉じ市民に家に留まるよう緊急命令を発した。これは独裁政権だ。(ツイート)

これに対しネタニヤフの息子ヤイール氏は強く反発  
あなたは専門分野では尊敬されているかもしれないが政治に関しては完全に愚かだ。あなたは嘘つきだ。そしてあなたの国イスラエルを憎んでいる。(ツイート)

結局、国民から大きな反発を受けネタニヤフ氏は議会の閉鎖を断念しました。ハラリ氏は、今も母国イスラエルの行方を心配しています。

この時は非常に危険な瞬間でした。ウイルスの流行と闘うという口実を使った政治的なクーデターでした。実際、首相は「議員の健康を守るために議会を閉鎖する」と言いました。とんでもない話です。幸いにも国民やメディア、対立する政党から大きな反発があって首相は閉鎖を撤回しました。いま議会は再開され、非常時を乗り切るための大連立工作が進んでいます。しかし、一時はイスラエルがハンガリーのようなコロナ独裁国になる危険もありました。コロナウイルスと闘うという口実の独裁制です。

一人の人物に強大な権力を与えると、その人物が間違った時にもたらされる結果は、はるかに重大なものになります。独裁制は効率が良いし迅速に行動できます。誰とも相談する必要がないからです。しかし、間違いを犯しても決して認めません。間違いを隠蔽します。メディアをコントロールしているので隠蔽するのが簡単だからです。他の手法を試すのではなく、間違いをさらに重ねます。そして責任を他の人に転嫁します。民主主義で大切なのは、政府が間違いを犯した時に自らそれを正すことです。そして政府が間違いを正そうとしない時に、政府を抑制する力を持つ別の権力が存在するという事です。

イスラエルでは1948年(第1次中東戦争)に出された緊急事態の宣言がまだ続いています。多くの緊急命令がいまだに法的に有効です。緊急措置が適用されるのは危機の間だけで、危機がさればいつも通りに戻ると思いがちですが、それは幻想です。緊急時だからこそ民主主義が必要です。チェック&バランスが維持されなければならないのです。政府を権力につなげる人だけでなく、国民すべてに奉仕させるために監視が必要なのです。

Q イスラエルは緊急事態の時に情報をどのように扱っているのでしょうか？ イスラエルは治安機関に監視技術の運用を容認していますね。

大変憂慮すべき事態だと思います。特にそれを行なっているのが治安機関だからです。私は監視を支持しますが、このタイプの監視は警察や秘密警察に依存しないように神経をとがらなせなければなりません。それは独立した保健部門の機関が実施すべきです。警察とのつながりが無い機関です。

新型コロナウイルスの拡大を防ぐため、イスラエル政府が用いたのはテロリストの行動を追跡するために国中に張り巡らされた世界最先端の監視システムです。

今回の措置では

感染者（疑われる人物も）の携帯電話の番号が保健省から警察に送られます。

警察はその人物の位置情報を遡り、過去の行動履歴を割り出します。さらにその人物の近くにいた人物を割り出し、接触者として特定していきます。

保健省が必要と判断すれば、警察は接触者を収容し、隔離することもできるのです。

私は監視には反対していません。むしろ感染の拡大を食い止めるために新しい技術を利用することには賛成しています。しかし監視は政府だけでなく一般市民にも2つの方法で力を与えるべきだと思います。

第1に、私自身や他の人々の身体の状態に関するデータを政府が集めて密かに保管することは許されません。私には自分の健康状態に関するデータにアクセスする権利が与えられるべきです。私自身の健康管理についてよりよい判断を下すためにです。また自分の健康データにアクセスできれば政府が採用している政策が有効か否かを自分の身をもって試すことができます。これがイランのように全体主義的な国家だと死者の数や今回の感染症拡大に関して国が信用に足るデータを公表しているかどうかさえ国民は知る由もありません。データを透明性を確保されるべきです。

第2は、政府の決定にも透明性がなければなりません。私は自国の政府の決定を監視できなくてはなりません。アメリカの交付金の分配状況を例にとりましょう。政府は先日、2.2兆ドルの救済策を決めました。でも、その交付を受け取るのは誰でしょう？ 私がアメリカの市民権をもし持っていたらこうした金がどこに行くのでしょうか？ この金をもらえるのは誰でももらえないのは誰なのかを監視する力が欲しいと思うでしょう。ですから監視は両方向であるべきです。

これが市民の持つべき力です。このような情報にアクセスできれば、市民はより大きな力を持つというわけです。

そして、もし社会的距離を取ることや手を洗うことの必要性を納得してもらいたいならば、市民を適切に教育し信頼できる情報を提供した上で、市民が自らの意思で正しく行動してくれると信頼する方がずっと良いやり方です。

Q 権威主義的、独裁的な監視に代わるものとして「民主主義的な監視」が可能だという研究者がいます。「民主主義的な監視」という言葉は自己矛盾ではないですか？

そんなことはありません。十分な知識を持ち自分自身の動機付けを持つ国民は、警察力に頼る国民よりもはるかに効果的です。これは緊急事態においても当てはまることです。例えば今回の危機で非常に重要な行動となった手洗いについて考えてみましょう。数億の国民に手洗いを強制するには2つの方法があります。1つは警察またはカメラをすべてのトイレに配置することです。国民を見張って手を洗わなかったら罰するというやり方です。

もう一つのやり方は、学校で良質の科学教育を通じてウイルスや細菌について理解させることです。ウイルスがどんなメカニズムで疾患を引き起こすかを教えるというやり方です。手を洗うことでウイルスや細菌を殺したり、洗い流したりできるとメディアを通じて説明するやり方です。その上で正しい判断をすることを国民に委ねるのです。誰の目にも明らかだと思いますが、今回の危機においては教育や個人的な動機付けの方がトイレに警官を配置するよりもはるかに有効です。それはウイルスと闘う他の方法にも当てはまることです。国民が進んで協力すればその方がはるかに効果的です。そのためには教育が必要です。そして政府が提供する情報を信頼できることが必要です。

私は監視は支持しますが全体主義的な監視は支持しません。監視についてはそれが常に双方向に働くことを念頭に置かねばなりません。政府が国民の監視をするだけでなく、国民が政府を監視するという側面です。例えば政府が腐敗しないように監視する良い政策に転換するように見張るといった具合です。独裁国家にあっては監視が一方通行なのです。政府が国民を監視して政府の決定は国民から隠すのです。政府から国民に伝わる情報はありません。それはとても危険です。私は双方向である場合にのみ監視を支持します。

Q 信頼してもらい、あるいは信頼を回復するにはどうしたら良いのでしょうか？ 信頼は何もないところからは生まれませんよね。

一つとても重要なのは科学と研究機関への信頼です。ここ数年ポピュリズムを奉じ責任に欠ける政治家たちが世界中に登場しました。そして意図的に人々の科学や大学、研究機関への信頼をおとしめようとしてきました。一部の政治家は科学者に「浮世離れしてエリート」とのレッテルを貼り権限を与えるな、と主張しました。中には荒唐無稽な陰謀論を拡散した者もいます。ワクチン接種に反対したり地球は平面だと主張する人まで現れました。しかしこの緊急事態に権威ある科学者への信頼を覆すことがどれだけ危険かははっきりしました。緊急事態に直面し、幸いにもほとんどの国に人々、政治家さえ科学が最も信頼できる拠り所だと感じています。疫学の専門家からの感染症についての情報を私たちは真剣に受け止めています。気候変動の研究者が温暖化について警告した時も、同様の信頼を持って受け止めるべきです。

Q あなたは人々のエンパワーについて話されました。今の状況は市民に突きつけられた試練だと思います。市民の側にはどのような行動が求められますか？ 何かを待っている余裕はないはずです。

エンパワーメント（エンパワメント）とは、個人や集団が本来持っている潜在能力を引き出し、湧き出させることを意味しており、「権限委譲」や「能力開花」と訳されます。組織における自律性の向上、社員が持っている能力の発揮、意思決定の迅速化といったメリットが期待できます。

確かにこのような状況では、市民に多くの責任が生じます。一つは、情報や行動のレベルです。信じるべき情報を慎重に吟味し科学に基づいて情報を信頼すること。そして科学的な裏付けのあるガイドラインを実行すること。市民が科学的な指針に従えば、緊急時に独裁的な手法を取る必要性がなくなります。これはとても重要です。私たち一人一人の務めは現在の状況や、誰を信じるべきかについて知識をつけ、大学の保健省など信頼に足る組織から出された指針を忠実に守り陰謀論のわなに陥らないことです。

この危機的状況の中で市民に課せられた2つ目の務めは、政治状況に目を光らせておくことです。今もこの瞬間にも極めて重要な政治決定が行われています。その決定に参加し、政治家たちの行動を監視することがとても重要です。

## 人々への提言とは？

Q 長い人類の歴史「サピエンス全史」から見て、この世界的なパンデミックが持つ意味とは何でしょうか？

人類はもちろん、このパンデミックを乗り切るでしょう。私たちはこのウイルスよりずっと強いし過去にももっと深刻な感染症を生き抜いてきた経験があります。その点に疑問の余地はありません。この感染拡大のインパクトが究極的に何をもたらすのか、あらかじめ決まっていません。それは私たちにかかっています。結末を選ぶのは私たちです。もし自国優先の孤立主義や独裁者を選び科学を信じず陰謀論を信じるようになったら、その結果は歴史的な大惨事でしょう。多数の人が亡くなり経済は危機に瀕し政治は大混乱に陥ります。

一方でグローバルな連帯や民主的で責任ある態度を選び科学を信じる道を選択すれば、たとえ死者や苦しむ人が出たとしても、後になって振り返れば人類にとって悪くない時期だったと思えるはずです。私たち人類はウイルスだけでなく自分の内側に潜む悪魔を打ち破ったのだ。憎悪や幻想、妄想を克服した時期として真実を信頼した時期として以前よりずっと強く団結した種しゅになれた時期として位置付けられるはずです。